

のぐち英一郎

Noguchi Eiichiro

号外！

ニュース



発行：市民ネット



鹿児島大学と、よかセンターに期日前投票所の増設が決定！ のぐちが議席をいただいて以来15年間、政治を身近にする念願の政策が実現しました。

鹿児島市、今春から投票所を増設。大学内への増設は九州初の試みに

▼皆様こんにちは。鹿児島市議・のぐち英一郎です。本日は、急ぎお知らせしたいことがあり、号外という形での目見

えとになりました。▼今回お知らせしたいのは、「2015年春の統一地方選から、鹿児島市では交通の便の良い

ところに投票所が二カ所増える」という、一月二十日に発表された嬉しいニュースです。私は2000年に議席をいただいて以来15年間、議会での投票に関する質問と提言を重ねてきました。ようやくそれが実を結び、このたびの実現となったのです。

▼一つは「よかセンター」（鹿児島中央駅向かいの、ダイエーのある建物の七・八階の、勤労者交流センター）です。大学への投票所の設置は、九州で初めての快挙となりました。

▼ただ、どちらの投票所も期日前投票のみ、という限定された試験的なものではありませんが、それでもなお、はじめの、そして大きな一歩であることに変わりはありません。

▼今回のニュースは投票率を上げる大きなチャンスですが、どこに投票所が増えたかが認知されなければ、効果につながりません。そのために、一番確実に皆様の耳目に触れる方法を考え、号外という形でお知らせとなりました。

▼お近くの方は投票の折に、ぜひ上記の新設投票所に足を運んでみてください。

これからの投票と投票所のあり方

▼今回の投票所増設は、あくまでも「投票しやすい社会」への一歩目に過ぎません。昨今の低い投票率を考えると、投票所への行きやすさとバリアフリー化、有権者に立候補者の情報が伝わっているか、といった様々な問題も見えてきます。

▼その上で野口は「投票所増設の輪をもっと広げていきたい」と考えています。具体的には市



内全ての大学と、その他駅ビルやショッピングモールといった皆様が日ごろから馴染みのある場所への増設を、今後とも議会の場で呼びかけていきます。ひいては多くの人にとって、政治と選挙がより身近なものになることを、野口は期待しています。

▼また、来年夏の参院選には、投票権が十八歳から、と引き下げになる可能性があります。そうなった時に自発的に考えて投票するために、中高生の時期から歴史としてではない、現在進行形の政治、社会の構造、地域の課題を知る必要が出てきます。社会を学ぶことと投票は分かち難く、そのことから教育の現場と投票所は、なるべく密接である方が良く思うのです。

▼政治は生活そのものと直結しています。むしろ「生活そのもの」と言っても過言ではありません。政治によって運営されるこの街の主人公は、あなた自身なのです。

▼今回の投票所増設が、三十年後、五十年後の鹿児島市にプラスに働くよう、政治への関わり、話し合い、まちづくりをぜひともご一緒しましょう。（のぐち英一郎）

この短文は、作家のいとうせいこうさんが前回の衆院選のときに著したものです。素晴らしい文章なので皆様にもおすす分けさせていただきます。



一羽の鳥について (あらゆる選挙に寄せて)



鹿児島・県議選の日時

4/3(金) 告示、4/12(日) 投開票

- ※ 自宅に投票所入場券（ハガキ）が届いている場合、持参すると素早く投票が終わります。
- ※ 投票所入場券がない場合でも、投票所で宣誓書に記入をし、投票をすることができます。
- ※ その他、必要な書類等はありません。
- ※ 鹿児島大学は 4/8,4/9 の2日間、よかセンターは 4/9-4/11 の3日間だけの期日前投票所となります。

今年のテーマ

『市の情報管理システム
経費削減にメスを入れます！』

これまで鹿児島市は、野口の長年の提言をよそに、高価な情報管理システムを自作していました。しかし近年になり、割安な市販システムの導入を開始。今年はこの動きをさらに広げます！

近況その2

鹿児島大学や
鹿児島国際大学で
外部講師を
しております！

近況その3

のぐち英一郎
3月の議会質問
3/9 11:00頃
(月)
ぜひ議会で生の
野口をご覧ください。



のぐち英一郎について

鹿児島市議。2000年に28歳で初当選。以来4期当選、現在にいたる。

なかなかわかりづらい政治の話を、議員だからこそ知りうる内情も混ぜて、わかりやすく解説します。趣味は、水泳と読書と料理（片付けは苦手）。

この号外に関するお問い合わせ

市民ネット のぐち英一郎
〒892-0811 鹿児島市玉里団地3-12-7

☎ 080 - 4314 - 1121

✉ eiichiro@entaku.info

🌐 http://entaku.info

📧 @entaku40

📖 「ほぼ日刊！
鹿児島市議 のぐち英一郎」

自分一人が投票したところで何も変わらない、と多くの人は思う。選挙を前にして自分が無力であると感じる。その感覚に傷ついて無関心になる人もいる。

だが、「自分一人が投票したところで何も変わらないと思う一人」が投票すると社会が変わる。私は何度かそういう選挙を見てきた。デモも同様である。

「私一人が出かけようが出かけまいが何も変わらないと思う」人が実際に出かけると、それが膨れ上がる列になる。

その時、世界は何かしら変わる（ただし根本的に私は、変わろうが変わるまいが思ったことを主張しに出かければよいだけだと考えるのではあるが。そもそも世界を変えたい場合、有効性ばかりを先に考えることは無意味だ。なぜなら変わる前の世界から見た有効性の基準は必ず「古い」から）。

がらりと世界が変わることもある。それはほとんど次元の移動のようだ。今生きている世界から別の世界に、人は突然接続する。私は決して疑似科学を語っているのではない。これが選挙の謎なのである。

代議制の、つまり多数の者が少数を選び、選出された者に政策をまかせるシステム、すなわち民主主義の厳密な数学、ないしは物理学がこれである。多数の者が少数の権力者に影響を与えるわけだから、それはデモの謎でもある。

私が変わると「私たち」が変わる。私が行かない投票には何千万人が行かない。私が行く投票には何千万人が行く。特に浮動票と言われる「私たち」は渡り鳥のようなものとイメージしてもいい。渡り鳥は飛び立つ時間をあらかじめ知っているのではなく、みんなで行きつ戻りつするうち突然旅に出る。その時、どの鳥が出発を決めたか。

最後はリーダーが決まってくるとしても、飛ぶ群れの起源を遡ればどうなるか。

「私」という一羽の鳥が、としか言えないのではないか。

さて、もしもあなたが「私たちが変わったところで政治家が変わらないのだから意味がない」と思うなら、それはそれである種の「政治不信というキャンペーン」によって「無力」さを刷り込まれているのだと私は考える。むしろ無力なのは選挙に落ちるかもしれない政治家の方だということを思い出して欲しい。

選挙期間というのは「無力」さの逆転が起きる時間なのであり、結果を決めるのは例の「私たち」以外にない。

つまり「私」以外に。

その時「力」はどちらにあるか。

あなたにある。

これが選挙というものの恐るべき、スリリングな本質だ。



いとうせいこう（作家・クリエイター） 本記事は「ポリタス」http://politias.jp/より、[クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス]として転載。政務活動費による活動報告として配布するため一部改変をしております。完全版はポリタスサイトへ。